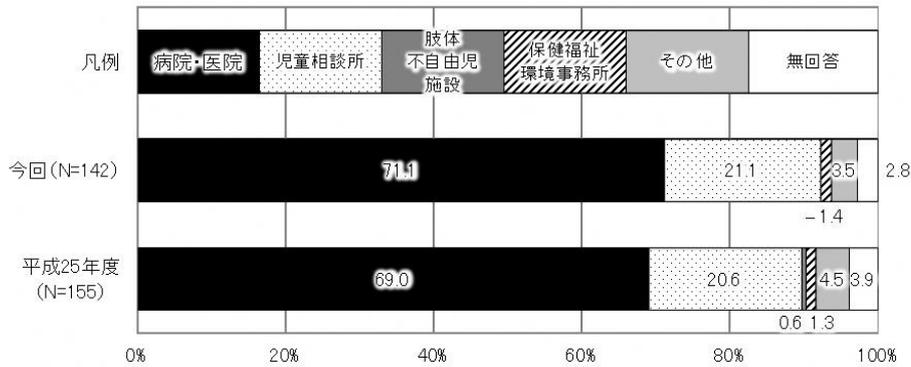


## 第4節 障がい児の療育や保育・教育について

### 1. 療育等について

#### (1) 障がいの診断・判定を受けた場所

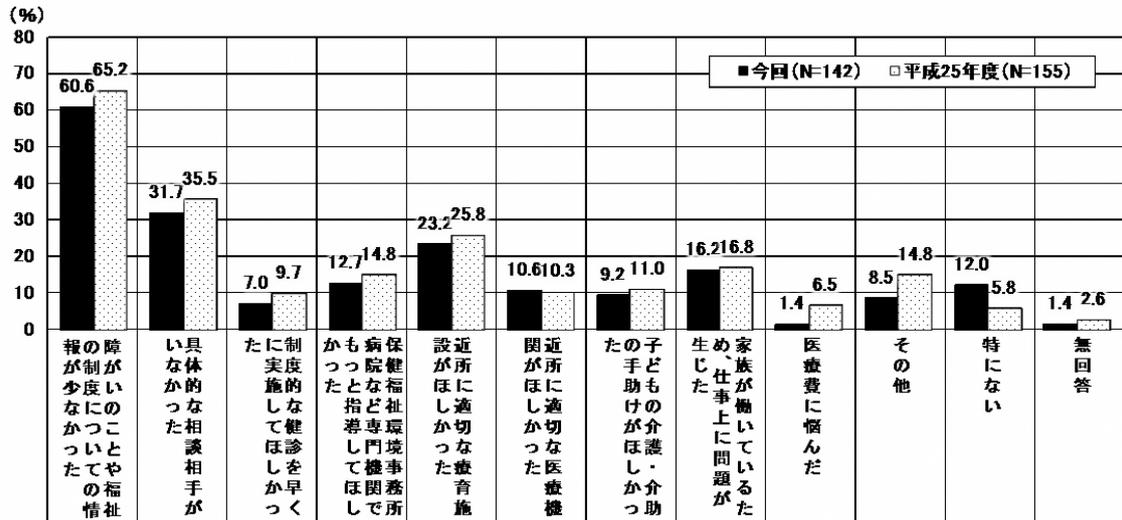
【図 4-1-1 障がいの診断・判定を受けた場所(全体・時系列)】



障がいの診断・判定を受けた場所では、「病院・医院」71.1%が最も多く、次いで、「児童相談所」21.1%、「その他」3.5%、「保健福祉環境事務所」1.4%となっている。

#### (2) 障がいの診断・判定を受けた当時の苦労や悩み

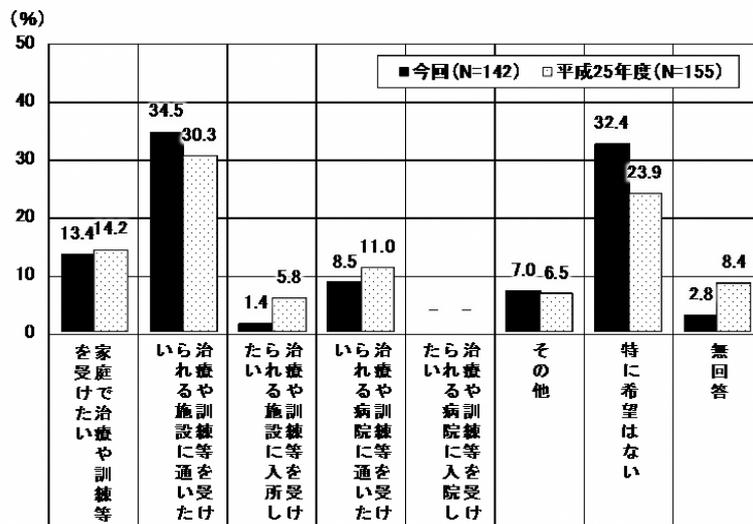
【図 4-1-2 障がいの診断・判定を受けた当時の苦労や悩み(全体・時系列)】



障がいの診断・判定を受けた頃の家族の苦労、悩み、不安では、「障がいのことや福祉の情報が少なかった」60.6%が最も多く、次いで、「具体的な相談相手がいなかった」31.7%、「近所に適切な療育施設がほしかった」23.2%、「家族が働いているため、仕事上に問題が生じた」16.2%、「保健福祉環境事務所・病院など専門機関でもっと指導してほしかった」12.7%となっている。

### (3) 治療や療育、訓練等についての希望

【図 4-1-3 治療や療育、訓練等についての希望(全体・時系列)】

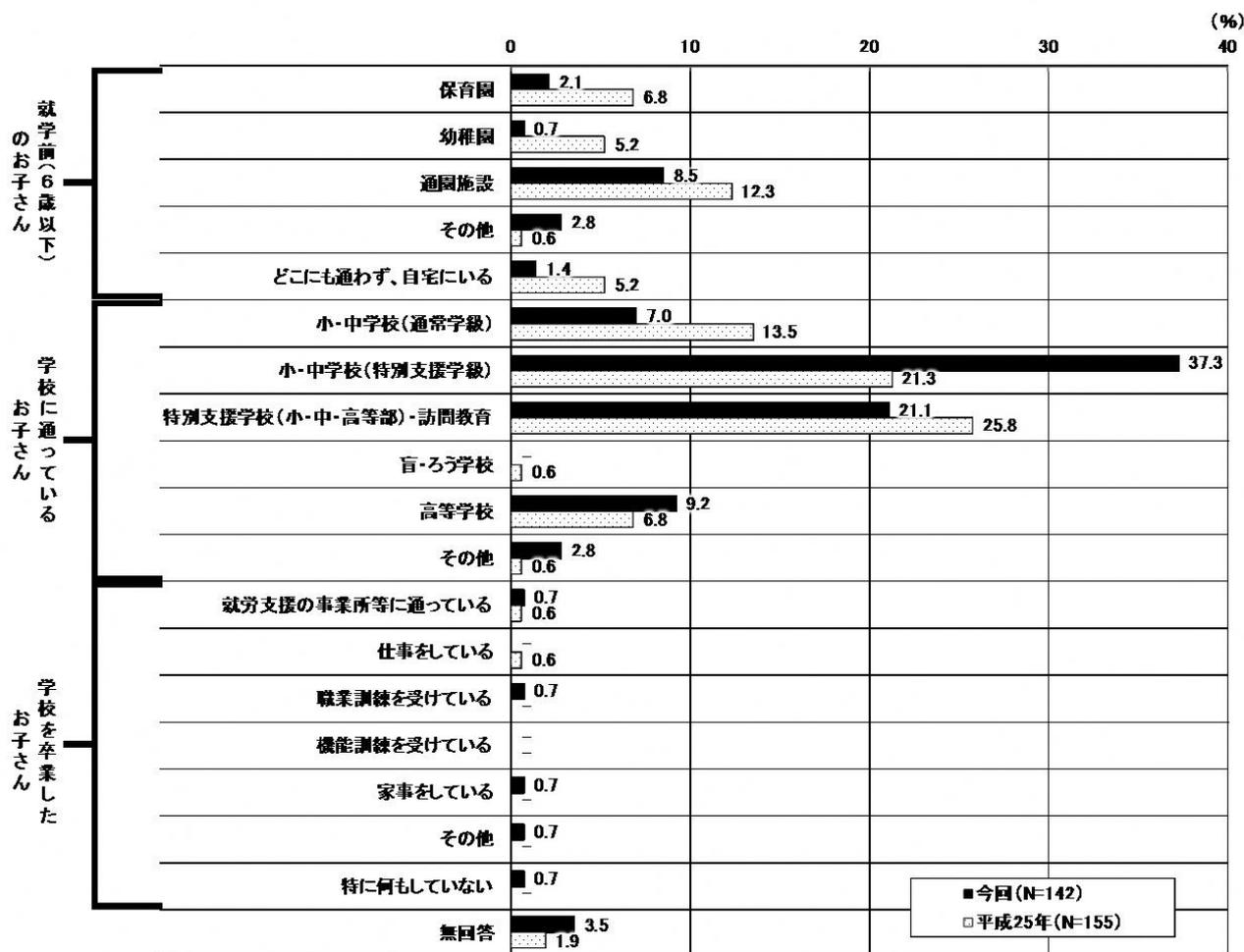


今後の治療や療育、訓練等に対する希望で、本人の希望に最も近いと思うものでは、「治療や訓練等を受けられる施設に通いたい」34.5%が最も多く、次いで、「特に希望はない」32.4%、「家庭で治療や訓練等を受けたい」13.4%、「治療や訓練等を受けられる病院に通いたい」8.5%、「その他」7.0%となっている。

## 2. 保育・教育について

### (1) 日中の過ごし方

【図 4-2-1-1 日中の過ごし方(全体・時系列)】

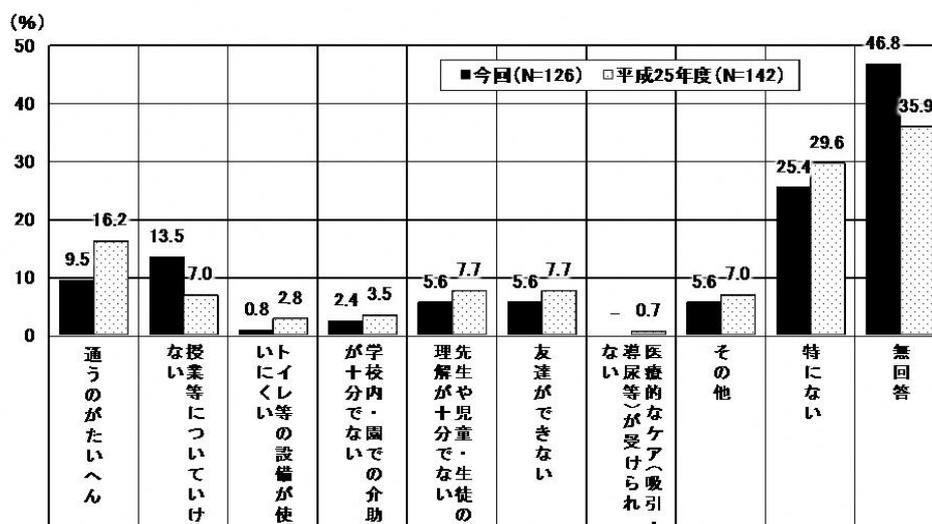


※「小・中学校(普通学級)」は「小・中学校(通常学級)」に変更。

日中の過ごし方では、「小・中学校(特別支援学級)」37.3%が最も多く、次いで、「特別支援学校(小・中・高等部)・訪問教育」21.1%、「高等学校」9.2%、「通園施設」8.5%、「小・中学校(通常学級)」7.0%となっている。

## (2) 通園・通学で困っていること

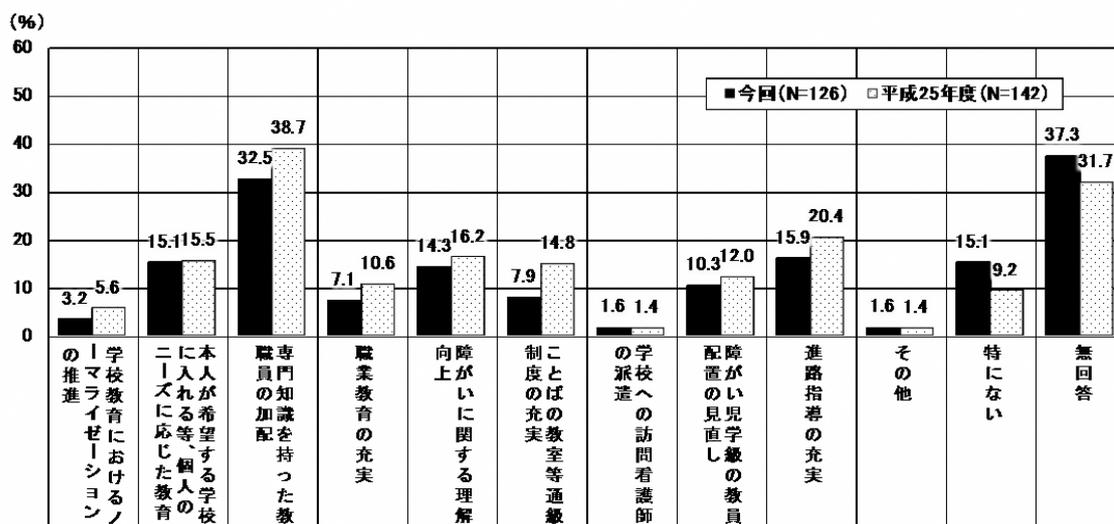
【図 4-2-2 通園・通学で困っていること(全体・時系列)】



通園や通学の困りごとでは、「特にない」25.4%が最も多く、次いで、「授業等についていけない」13.5%、「通うのがたいへん」9.5%、「先生や児童・生徒の理解が十分でない」「友達ができない」「その他」5.6%となっている。

## (3) 保育・教育に関する要望

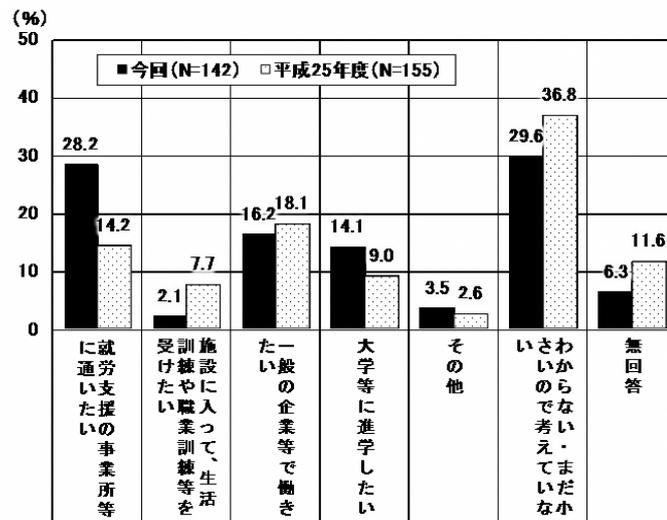
【図 4-2-3 保育・教育に関する要望(全体・時系列)】



保育や教育に関する要望では、「専門知識を持った教職員の加配」32.5%が最も多く、次いで、「進路指導の充実」15.9%、「本人が希望する学校に入れる等、個人のニーズに応じた教育」15.1%、「特にない」15.1%、「障がいに関する理解向上」14.3%となっている。

#### (4) 学校卒業後の進路希望

【図 4-2-4 学校卒業後の進路希望(全体・時系列)】



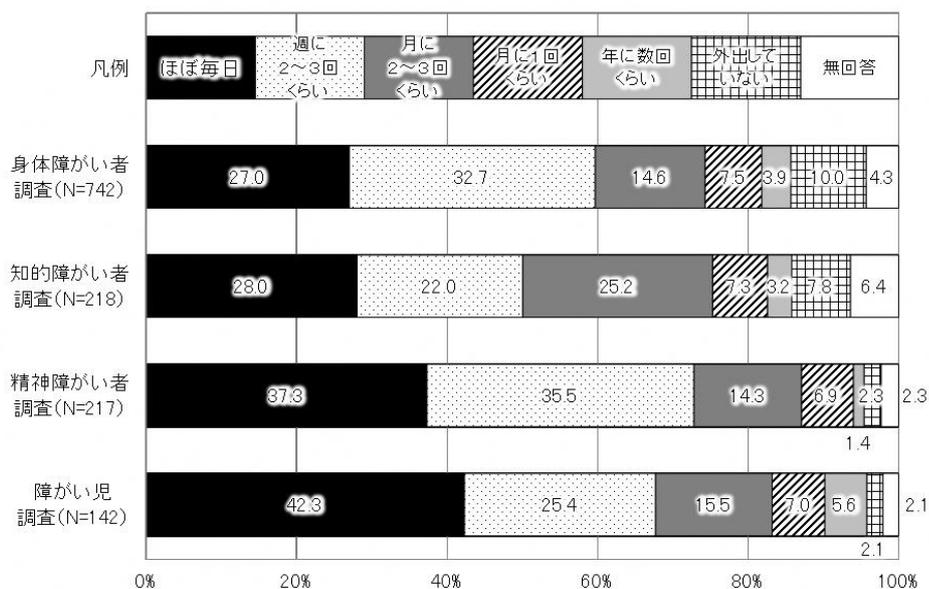
卒業後の進路で本人の希望に最も近いと思うものでは、「わからない・まだ小さいので考えていない」29.6%が最も多く、次いで、「就労支援の事業所等に通いたい」28.2%、「一般の企業等で働きたい」16.2%、「大学等に進学したい」14.1%、「その他」3.5%となっている。

## 第5節 外出について

### 1. 外出の状況

#### (1) 外出の状況

【図 5-1-1 外出の状況(全体・調査別)】



身体障がい者では、「週に2～3回くらい」32.7%が最も多く、次いで、「ほぼ毎日」27.0%、「月に2～3回くらい」14.6%、「外出していない」10.0%、「月に1回くらい」7.5%となっている。

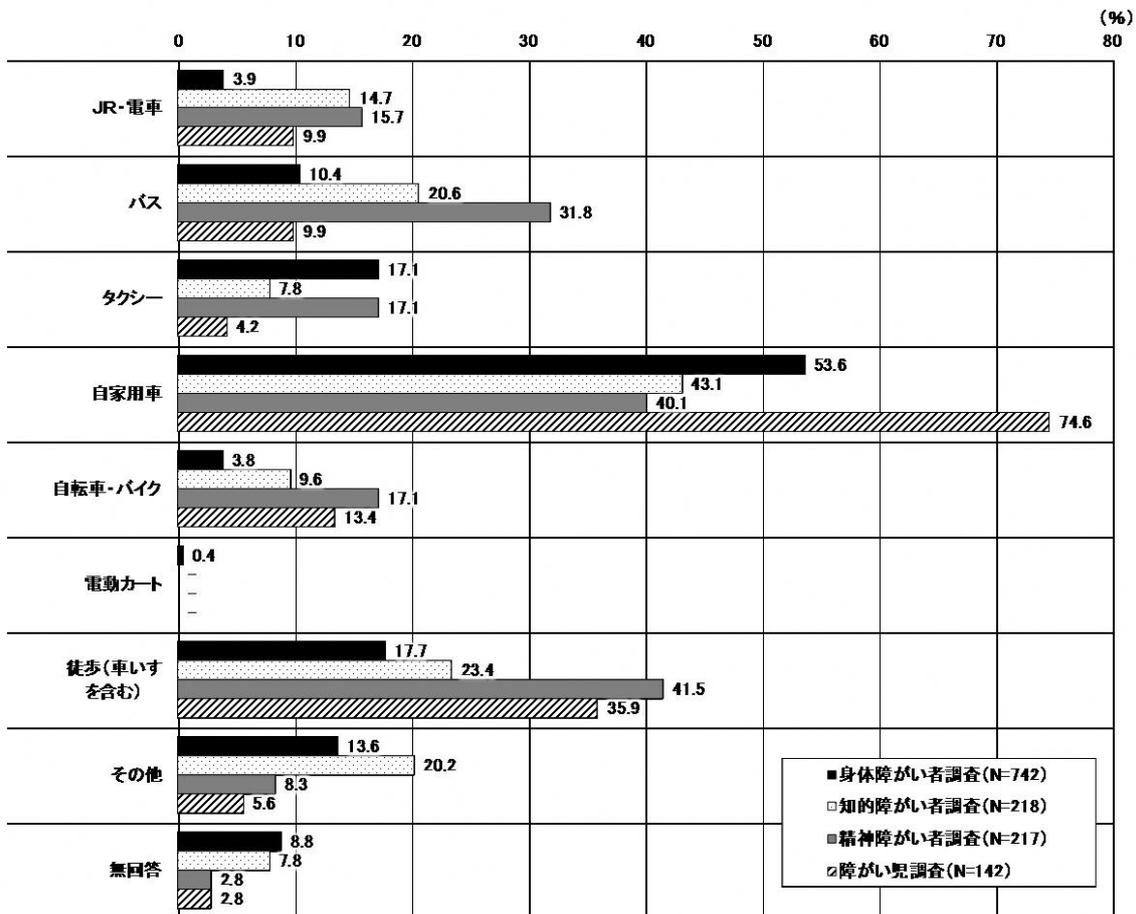
知的障がい者では、「ほぼ毎日」28.0%が最も多く、次いで、「月に2～3回くらい」25.2%、「週に2～3回くらい」22.0%、「外出していない」7.8%、「月に1回くらい」7.3%となっている。

精神障がい者では、「ほぼ毎日」37.3%が最も多く、次いで、「週に2～3回くらい」35.5%、「月に2～3回くらい」14.3%、「月に1回くらい」6.9%、「外出していない」2.3%となっている。

障がい児では、「ほぼ毎日」42.3%が最も多く、次いで、「週に2～3回くらい」25.4%、「月に2～3回くらい」15.5%、「月に1回くらい」7.0%、「年に数回くらい」5.6%となっている。

## (2)外出時の移動手段

【図 5-1-2 外出時の移動手段(全体・調査別)】



身体障がい者では、「自家用車」53.6%が最も多く、次いで、「徒歩（車いすを含む）」17.7%、「タクシー」17.1%、「その他」13.6%、「バス」10.4%となっている。

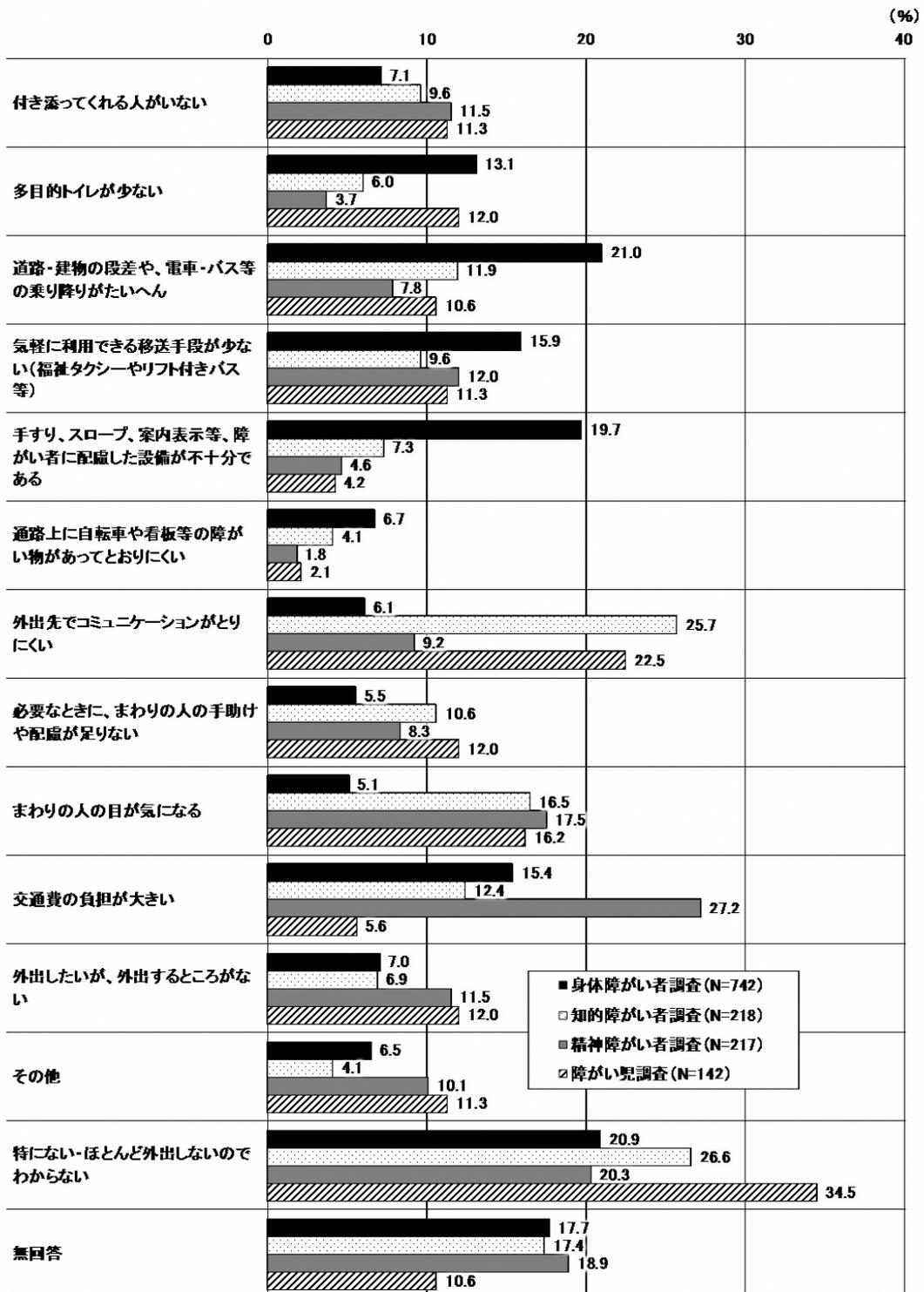
知的障がい者では、「自家用車」43.1%が最も多く、次いで、「徒歩（車いすを含む）」23.4%、「バス」20.6%、「その他」20.2%、「JR・電車」14.7%となっている。

精神障がい者では、「徒歩（車いすを含む）」41.5%が最も多く、次いで、「自家用車」40.1%、「バス」31.8%、「タクシー」「自転車・バイク」17.1%となっている。

障がい児では、「自家用車」74.6%が最も多く、次いで、「徒歩（車いすを含む）」35.9%、「自転車・バイク」13.4%、「JR・電車」「バス」9.9%となっている。

(3)外出時に不便や困難を感じること

【図 5-1-3 外出時に不便や困難を感じること(全体・調査別)】



身体障がい者では、「道路・建物の段差や、電車・バス等の乗り降りがたいへん」21.0%が最も多く、次いで、「特にない・ほとんど外出しないのでわからない」20.9%、「障がい者用の駐車スペースや手すり、スロープ、案内表示等、障がい者に配慮した設備が不十分である」19.7%、「気軽に利用できる移送手段が少ない（福祉タクシーやリフト付きバス等）」15.9%、「交通費の負担が大きい」15.4%となっている。

知的障がい者では、「特にない・ほとんど外出しないのでわからない」26.6%が最も多く、次いで、「外出先でコミュニケーションがとりにくい」25.7%、「まわりの人の目が気になる」16.5%、「交通費の負担が大きい」12.4%、「道路・建物の段差や、電車・バス等の乗り降りがたいへん」11.9%となっている。

精神障がい者では、「交通費の負担が大きい」27.2%が最も多く、次いで、「特にない・ほとんど外出しないのでわからない」20.3%、「まわりの人の目が気になる」17.5%、「気軽に利用できる移送手段が少ない（福祉タクシーやリフト付きバス等）」12.0%、「付き添ってくれる人がいない」「外出したいが、外出するところがない」11.5%となっている。

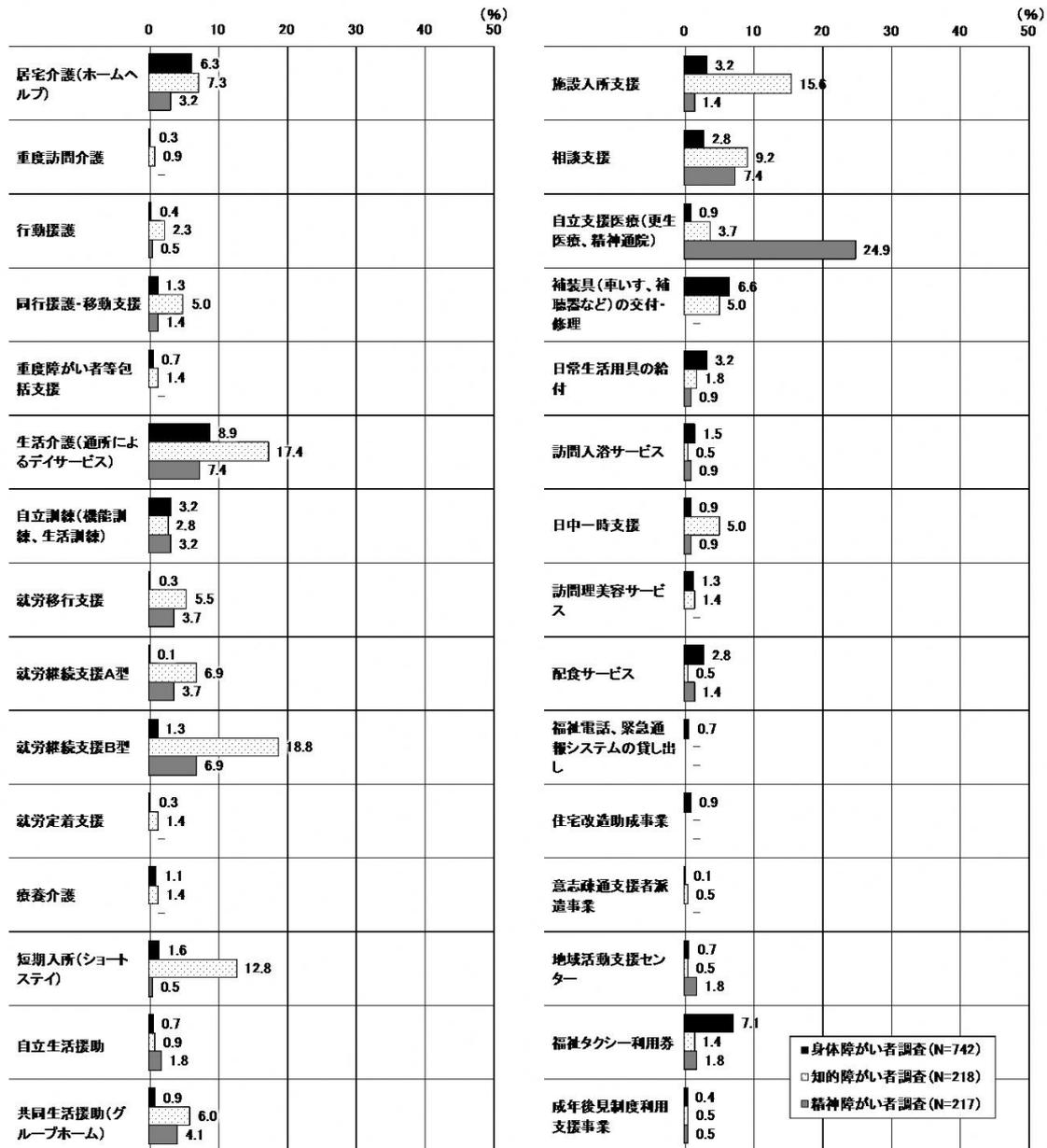
障がい児では、「特にない・ほとんど外出しないのでわからない」34.5%が最も多く、次いで、「外出先でコミュニケーションがとりにくい」22.5%、「まわりの人の目が気になる」16.2%、「多目的トイレが少ない」「必要なときに、まわりの人の手助けや配慮が足りない」「外出したいが、外出するところがない」12.0%となっている。

## 第6節 福祉サービスについて

### 1. 福祉サービスの利用状況・利用意向

#### (1) 現在利用中の障がい福祉サービス

【図 6-1-1-1 現在利用中の障がい福祉サービス(全体・調査(身体障がい・知的障がい・精神障がい)別)】



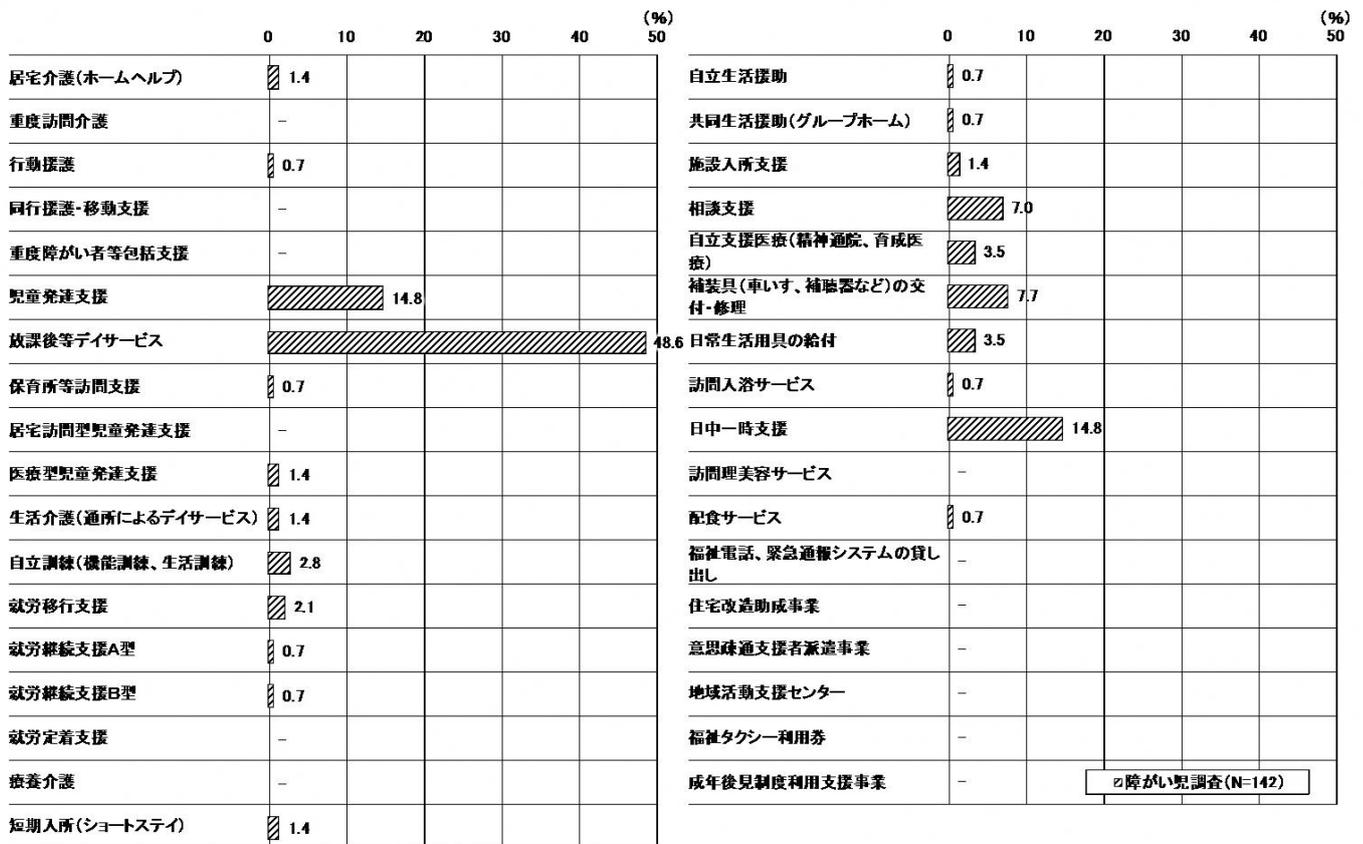
身体障がい者では、「生活介護(通所によるデイサービス)」8.9%が最も多く、次いで、「福祉タクシー利用券」7.1%、「補装具(車いす、補聴器など)の交付・修理」6.6%、「居宅介護(ホームヘルプ)」6.3%、

「自立訓練（機能訓練、生活訓練）」「施設入所支援」「日常生活用具の給付」3.2%となっている。

知的障がい者では、「就労継続支援B型」18.8%が最も多く、次いで、「生活介護（通所によるデイサービス）」17.4%、「施設入所支援」15.6%、「短期入所（ショートステイ）」12.8%、「相談支援」9.2%となっている。

精神障がい者では、「自立支援医療（更生医療）」24.9%が最も多く、次いで、「生活介護（通所によるデイサービス）」「相談支援」7.4%、「就労継続支援B型」6.9%、「共同生活援助（グループホーム）」4.1%となっている。

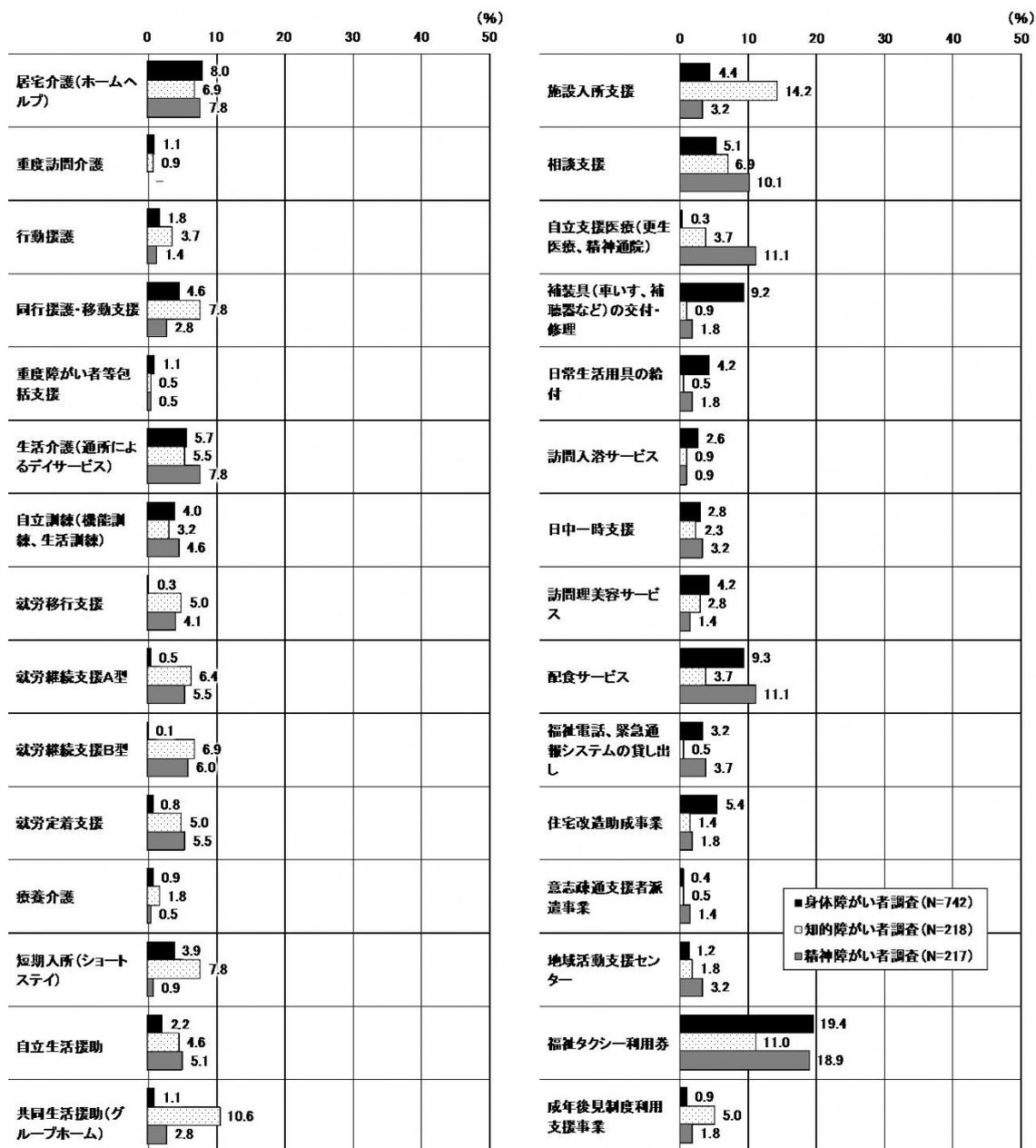
【図 6-1-1-2 現在利用中の障がい福祉サービス(全体・調査(障がい児)別)】



障がい児では、「放課後等デイサービス」48.6%が最も多く、次いで、「児童発達支援」「日中一時支援」14.8%、「補装具（車いす、補聴器など）の交付・修理」7.7%、「相談支援」7.0%、「自立支援医療（精神通院、育成医療）」3.5%となっている。

## (2) 今後利用してみたい障がい福祉サービス

【図 6-1-2-1 今後利用してみたい障がい福祉サービス(全体・調査(身体障がい・知的障がい・精神障がい)別)】

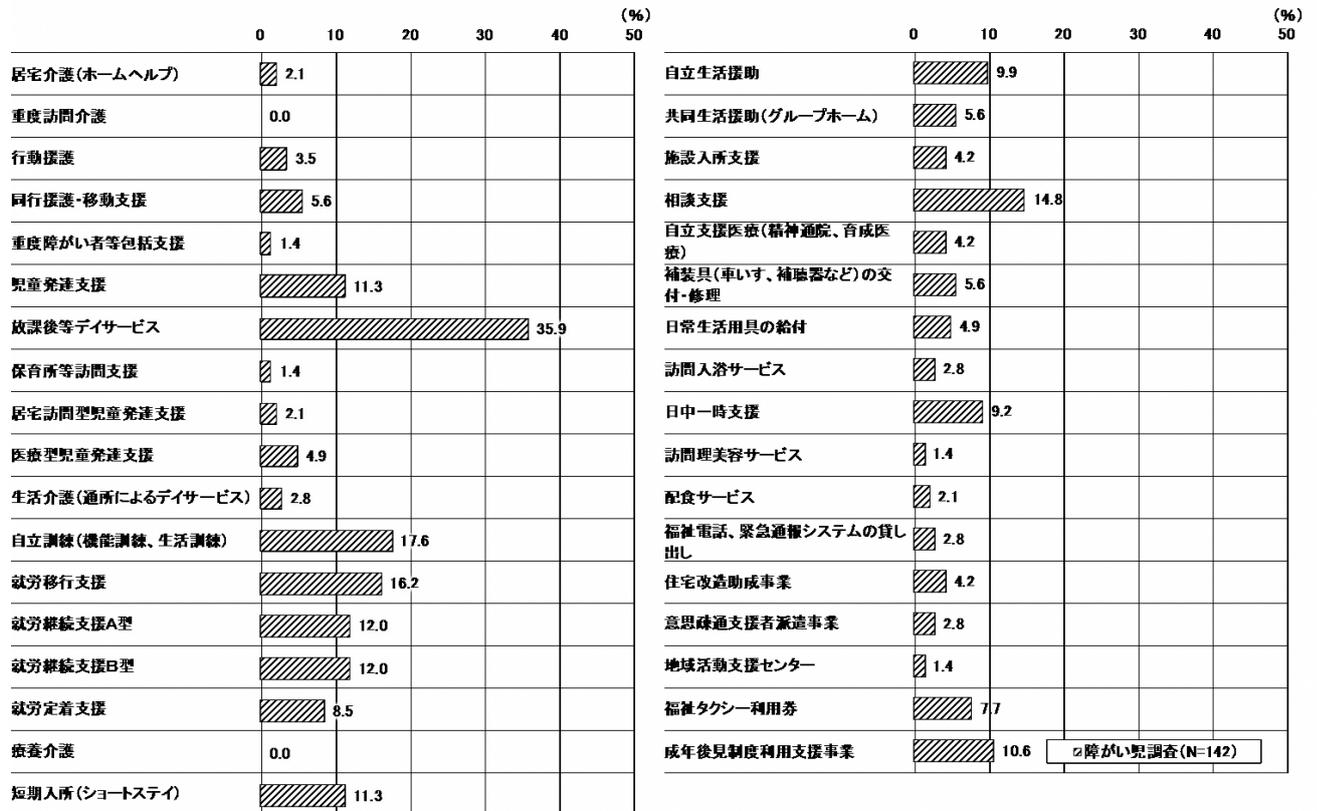


身体障がい者では、「福祉タクシー利用券」19.4%が最も多く、次いで、「配食サービス」9.3%、「補装具(車いす、補聴器など)の交付・修理」9.2%、「居宅介護(ホームヘルプ)」8.0%、「生活介護(通所によるデイサービス)」5.7%、「相談支援」5.1%となっている。

知的障がい者では、「施設入所支援」14.2%が最も多く、次いで、「福祉タクシー利用券」11.0%、「共同生活援助(グループホーム)」10.6%、「同行援護・移動支援」7.8%、「短期入所(ショートステイ)」7.8%、「居宅介護(ホームヘルプ)」「就労継続支援B型」6.9%となっている。

精神障がい者では、「福祉タクシー利用券」18.9%が最も多く、次いで、「自立支援医療(更生医療)」「配食サービス」11.1%、「相談支援」10.1%、「居宅介護(ホームヘルプ)」「生活介護(通所によるデイサービス)」7.8%となっている。

【図 6-1-2-2 今後利用してみたい障がい福祉サービス(全体・調査(障がい児)別)】



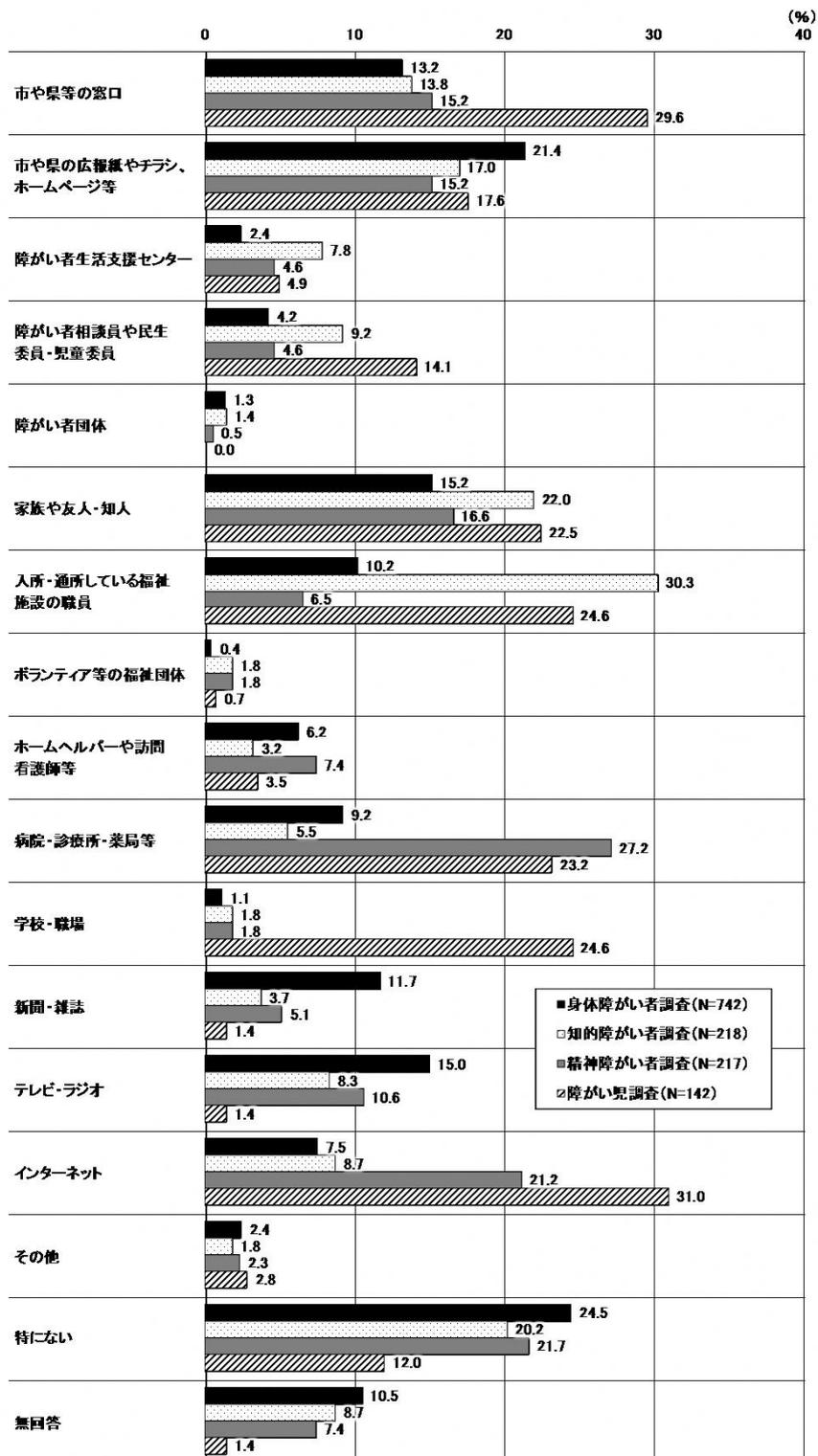
障がい児では、「放課後等デイサービス」35.9%が最も多く、次いで、「自立訓練(機能訓練、生活訓練)」17.6%、「就労移行支援」16.2%、「相談支援」14.8%、「就労継続支援A型」「就労継続支援B型」12.0%となっている。

## 第7節 情報収集について

### 1. 福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報について

#### (1) 生活に必要な情報の入手先

【図 7-1-1 生活に必要な情報の入手先(全体・調査別)】



身体障がい者では、「特にない」24.5%が最も多く、次いで、「市や県の広報紙やチラシ、ホームページ等」21.4%、「家族や友人・知人」15.2%、「テレビ・ラジオ」15.0%、「市や県等の窓口」13.2%となっている。

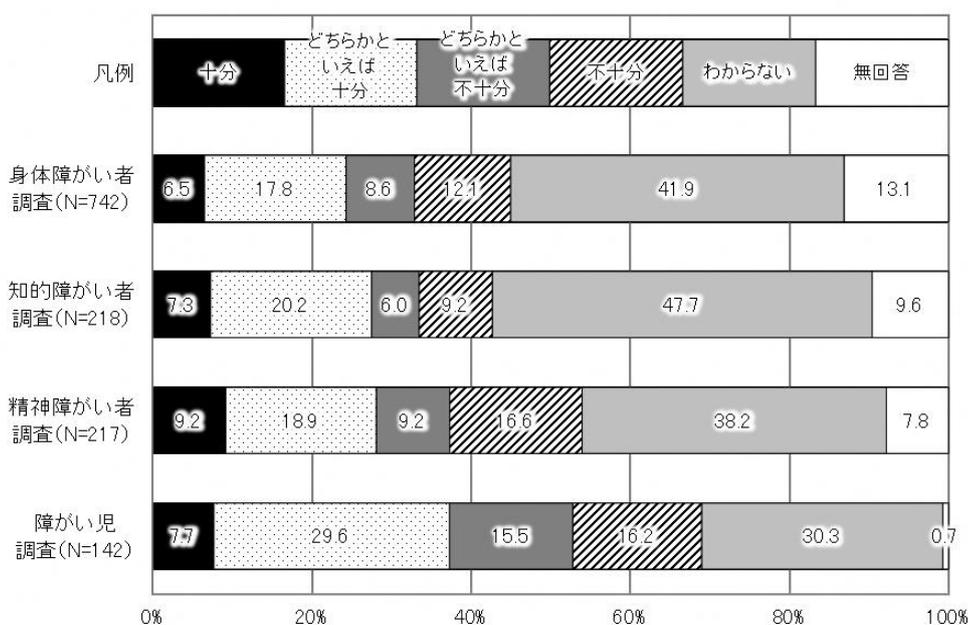
知的障がい者では、「入所・通所している福祉施設の職員」30.3%が最も多く、次いで、「家族や友人・知人」22.0%、「特にない」20.2%、「市や県の広報紙やチラシ、ホームページ等」17.0%、「市や県等の窓口」13.8%となっている。

精神障がい者では、「病院・診療所・薬局等」27.2%が最も多く、次いで、「特にない」21.7%、「インターネット」21.2%、「家族や友人・知人」16.6%、「市や県等の窓口」「市や県の広報紙やチラシ、ホームページ等」15.2%となっている。

障がい児では、「インターネット」31.0%が最も多く、次いで、「市や県等の窓口」29.6%、「入所・通所している福祉施設の職員」「学校・職場」24.6%、「病院・診療所・薬局等」23.2%となっている。

## (2) 生活に必要な情報の入手状況

【図 7-1-2 生活に必要な情報の入手状況(全体・調査別)】



身体障がい者では、「わからない」41.9%が最も多く、次いで、「どちらかといえば十分」17.8%、「不十分」12.1%、「どちらかといえば不十分」8.6%、「十分」6.5%となっている。

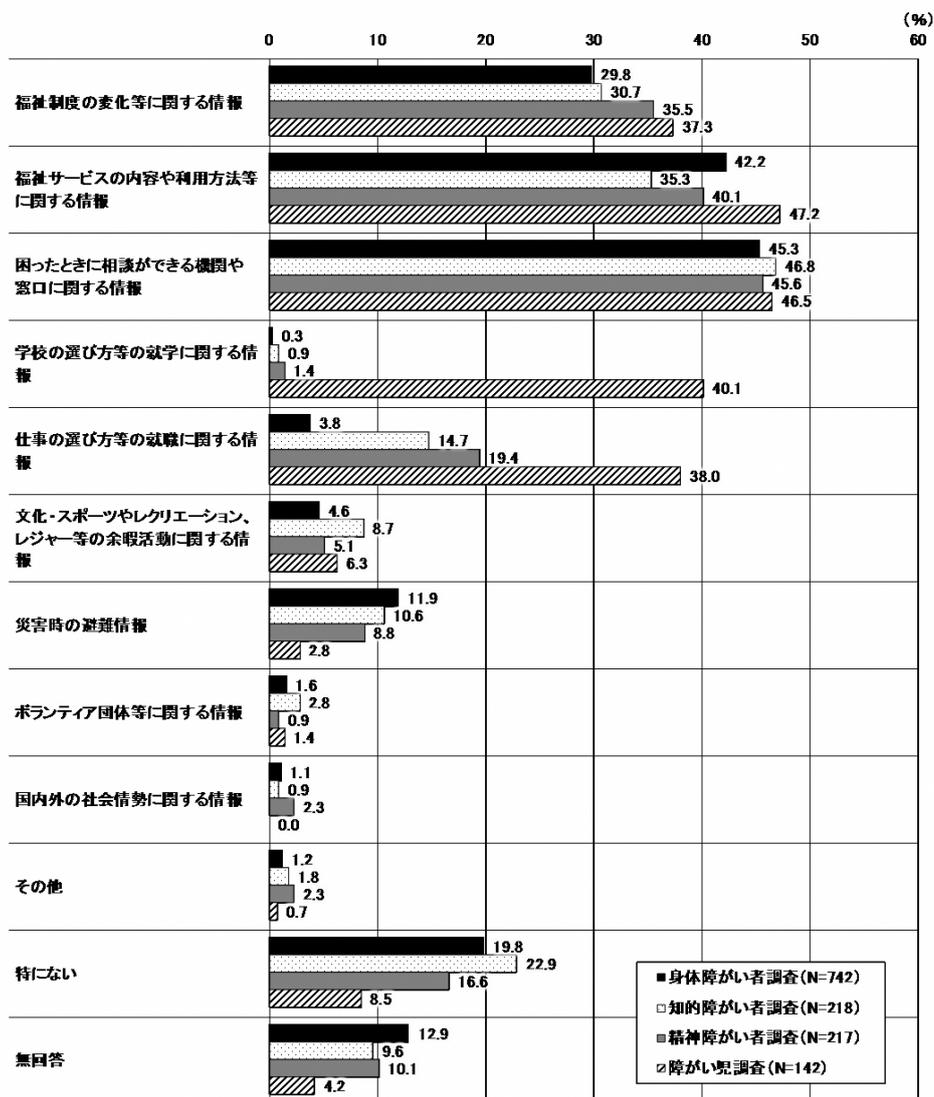
知的障がい者では、「わからない」47.7%が最も多く、次いで、「どちらかといえば十分」20.2%、「不十分」9.2%、「十分」7.3%、「どちらかといえば不十分」6.0%となっている。

精神障がい者では、「わからない」38.2%が最も多く、次いで、「どちらかといえば十分」18.9%、「不十分」16.6%、「十分」「どちらかといえば不十分」9.2%となっている。

障がい児では、「わからない」30.3%が最も多く、次いで、「どちらかといえば十分」29.6%、「不十分」16.2%、「どちらかといえば不十分」15.5%、「十分」7.7%となっている。

### (3) 充実してほしい情報

【図 7-1-3 充実してほしい情報(全体・調査別)】



身体障がい者では、「困ったときに相談ができる機関や窓口に関する情報」45.3%が最も多く、次いで、「福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報」42.2%、「福祉制度の変化等に関する情報」29.8%、「特にない」19.8%、「災害時の避難情報」11.9%となっている。

知的障がい者では、「困ったときに相談ができる機関や窓口に関する情報」46.8%が最も多く、次いで、「福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報」35.3%、「福祉制度の変化等に関する情報」30.7%、「特にない」22.9%、「仕事の選び方等の就職に関する情報」14.7%となっている。

精神障がい者では、「困ったときに相談ができる機関や窓口に関する情報」45.6%が最も多く、次いで、「福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報」40.1%、「福祉制度の変化等に関する情報」35.5%、「仕事の選び方等の就職に関する情報」19.4%、「特にない」16.6%となっている。

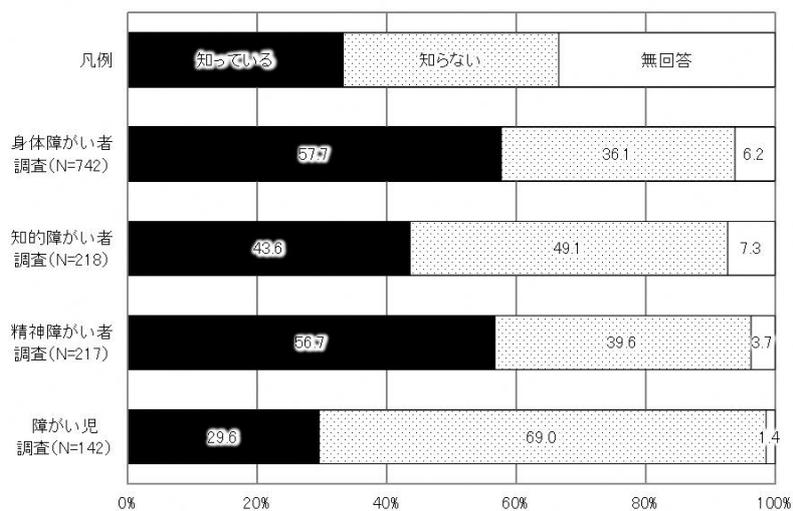
障がい児では、「福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報」47.2%が最も多く、次いで、「困ったときに相談ができる機関や窓口に関する情報」46.5%、「学校の選び方等の就学に関する情報」40.1%、「仕事の選び方等の就職に関する情報」38.0%、「福祉制度の変化等に関する情報」37.3%となっている。

## 第8節 災害対策について

### 1. 災害対策について

#### (1) 自宅近くの災害時の避難先の認知状況

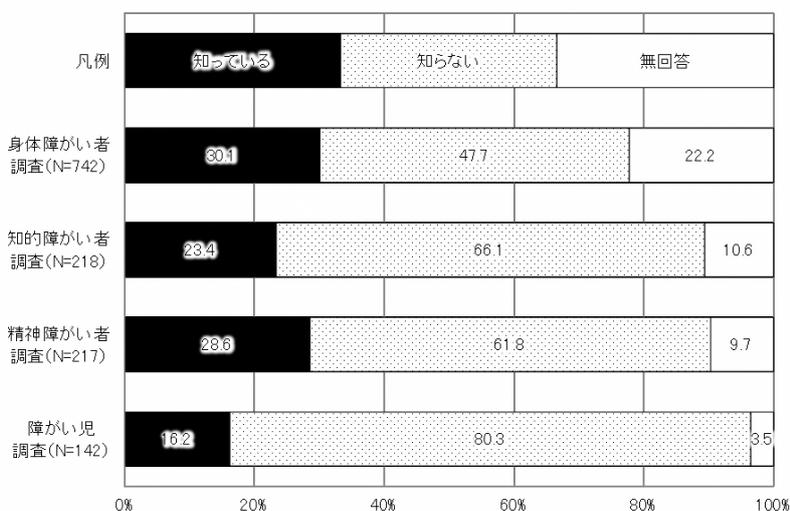
【図 8-1-1 自宅近くの災害時の避難先の認知状況(全体・調査別)】



身体障がい者では、「知っている」が 57.7%、「知らない」が 36.1%となっている。知的障がい者では、「知らない」が 49.1%、「知っている」が 43.6%となっている。精神障がい者では、「知っている」が 56.7%、「知らない」が 39.6%となっている。障がい児では、「知らない」が 69.0%、「知っている」が 29.6%となっている。

## (2) 職場や通所先、学校の近くにある災害時の避難先の認知状況

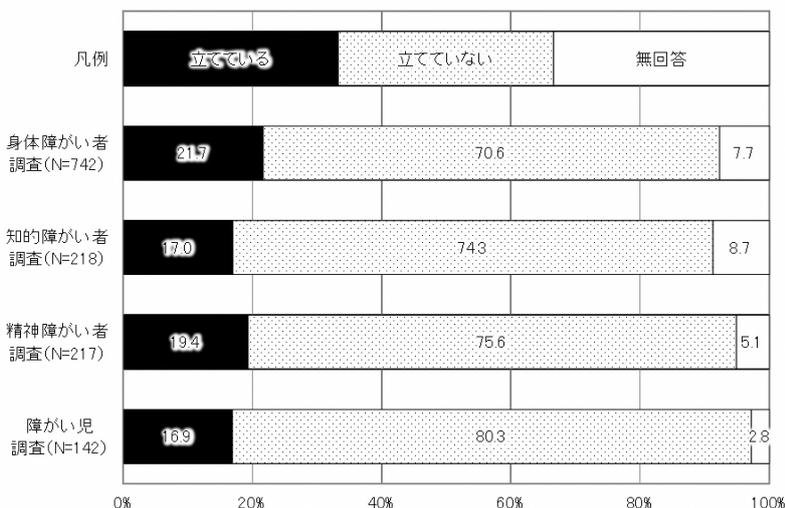
【図 8-1-2 職場や通所先、学校の近くにある災害時の避難先の認知状況(全体・調査別)】



身体障がい者では、「知らない」が47.7%、「知っている」が30.1%となっている。知的障がい者では、「知らない」が66.1%、「知っている」が23.4%となっている。精神障がい者では、「知らない」が61.8%、「知っている」が28.6%となっている。障がい児では、「知らない」が80.3%、「知っている」が16.2%となっている。

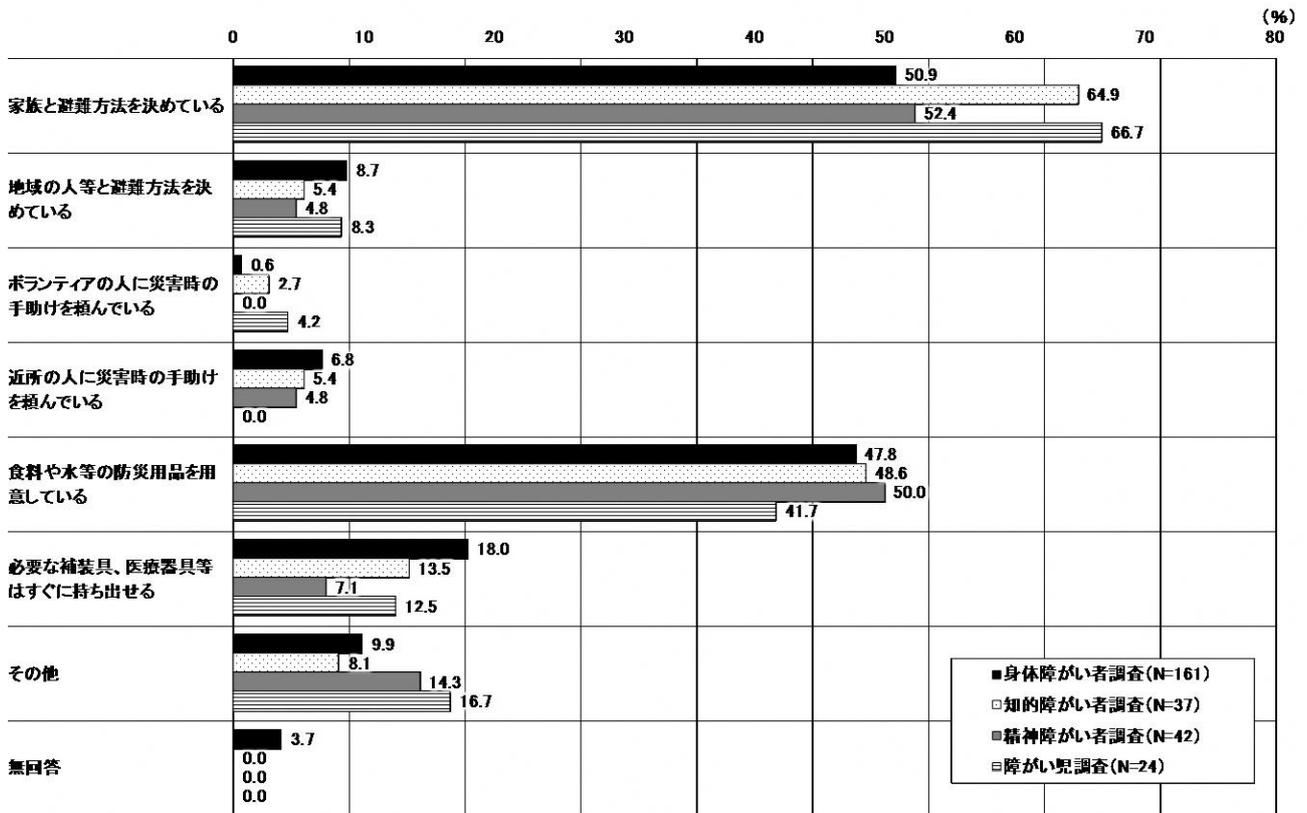
## (3) 災害時の対策

【図 8-1-3-1 災害時の対策(全体・調査別)】



身体障がい者では、「立てていない」が70.6%、「立てている」が21.7%となっている。知的障がい者では、「立てていない」が74.3%、「立てている」が17.0%となっている。精神障がい者では、「立てていない」が75.6%、「立てている」が19.4%となっている。障がい児では、「立てていない」が80.3%、「立てている」が16.9%となっている。

【図 8-1-3-2 災害時の対策内容(全体・調査別)】



身体障がい者では、「家族と避難方法を決めている」50.9%が最も多く、次いで、「食料や水等の防災用品を用意している」47.8%、「必要な補装具、医療器具等はすぐに持ち出せる」18.0%、「その他」9.9%、「地域の人等と避難方法を決めている」8.7%となっている。

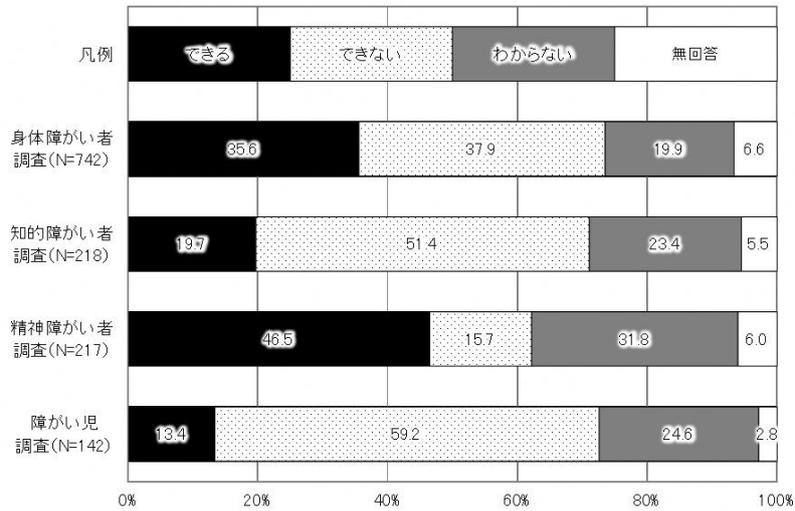
知的障がい者では、「家族と避難方法を決めている」64.9%が最も多く、次いで、「食料や水等の防災用品を用意している」48.6%、「必要な補装具、医療器具等はすぐに持ち出せる」13.5%、「その他」8.1%、「地域の人等と避難方法を決めている」「近所の人に災害時の手助けを頼んでいる」5.4%となっている。

精神障がい者では、「家族と避難方法を決めている」52.4%が最も多く、次いで、「食料や水等の防災用品を用意している」50.0%、「その他」14.3%、「必要な補装具、医療器具等はすぐに持ち出せる」7.1%、「地域の人等と避難方法を決めている」「近所の人に災害時の手助けを頼んでいる」4.8%となっている。

障がい児では、「家族と避難方法を決めている」66.7%が最も多く、次いで、「食料や水等の防災用品を用意している」41.7%、「その他」16.7%、「必要な補装具、医療器具等はすぐに持ち出せる」12.5%、「地域の人等と避難方法を決めている」8.3%となっている。

#### (4) 災害時の自力による避難

【図 8-1-4 災害時の自力による避難(全体・調査別)】



身体障がい者では、「できない」37.9%が最も多く、次いで、「できる」35.6%、「わからない」19.9%となっている。

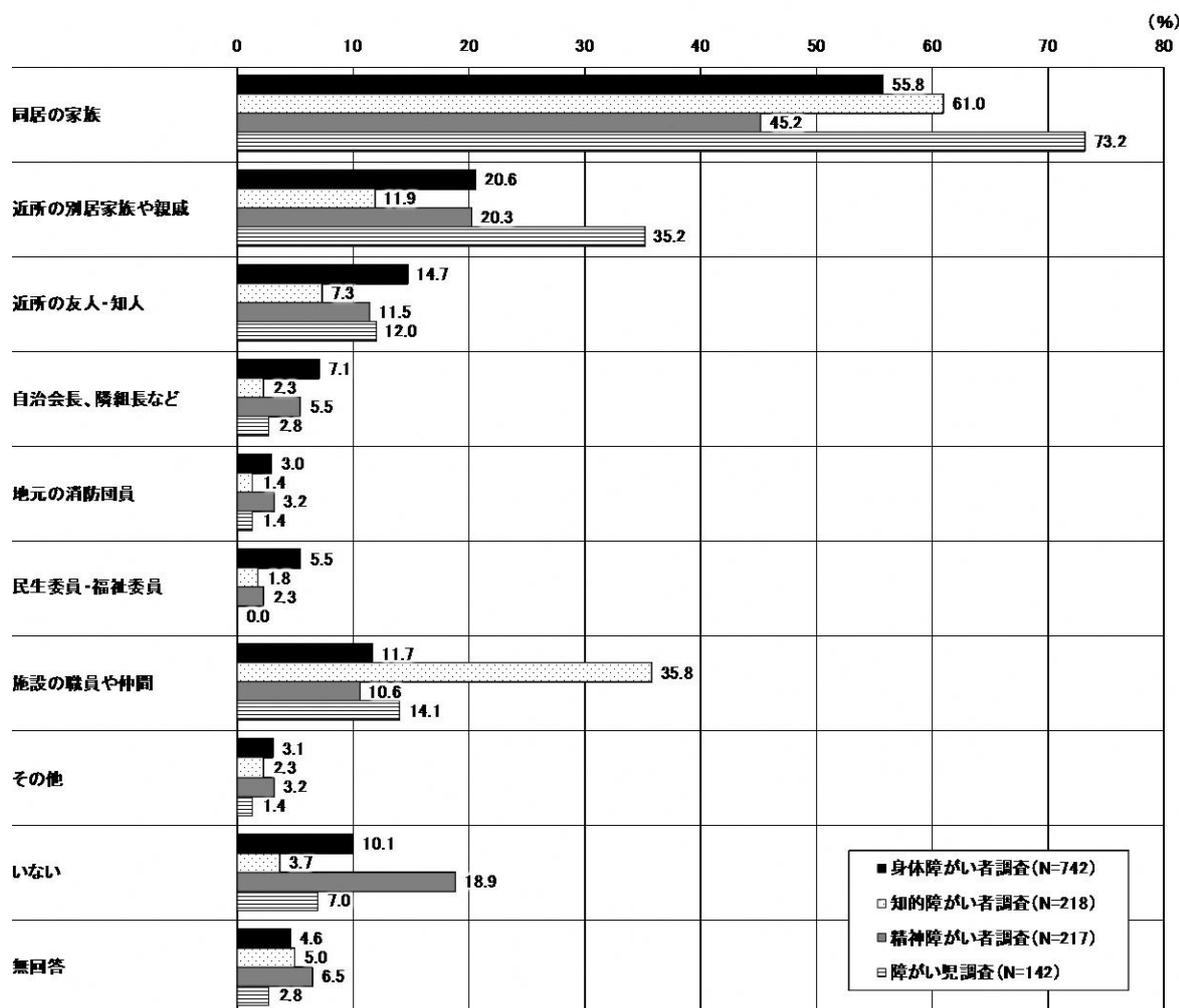
知的障がい者では、「できない」51.4%が最も多く、次いで、「わからない」23.4%、「できる」19.7%となっている。

精神障がい者では、「できる」46.5%が最も多く、次いで、「わからない」31.8%、「できない」15.7%となっている。

障がい児では、「できない」59.2%が最も多く、次いで、「わからない」24.6%、「できる」13.4%となっている。

(5) 災害時に頼れる人

【図 8-1-5 災害時に頼れる人(全体・調査別)】



身体障がい者では、「同居の家族」55.8%が最も多く、次いで、「近所の別居家族や親戚」20.6%、「近所の友人・知人」14.7%、「施設の職員や仲間」11.7%、「いない」10.1%となっている。

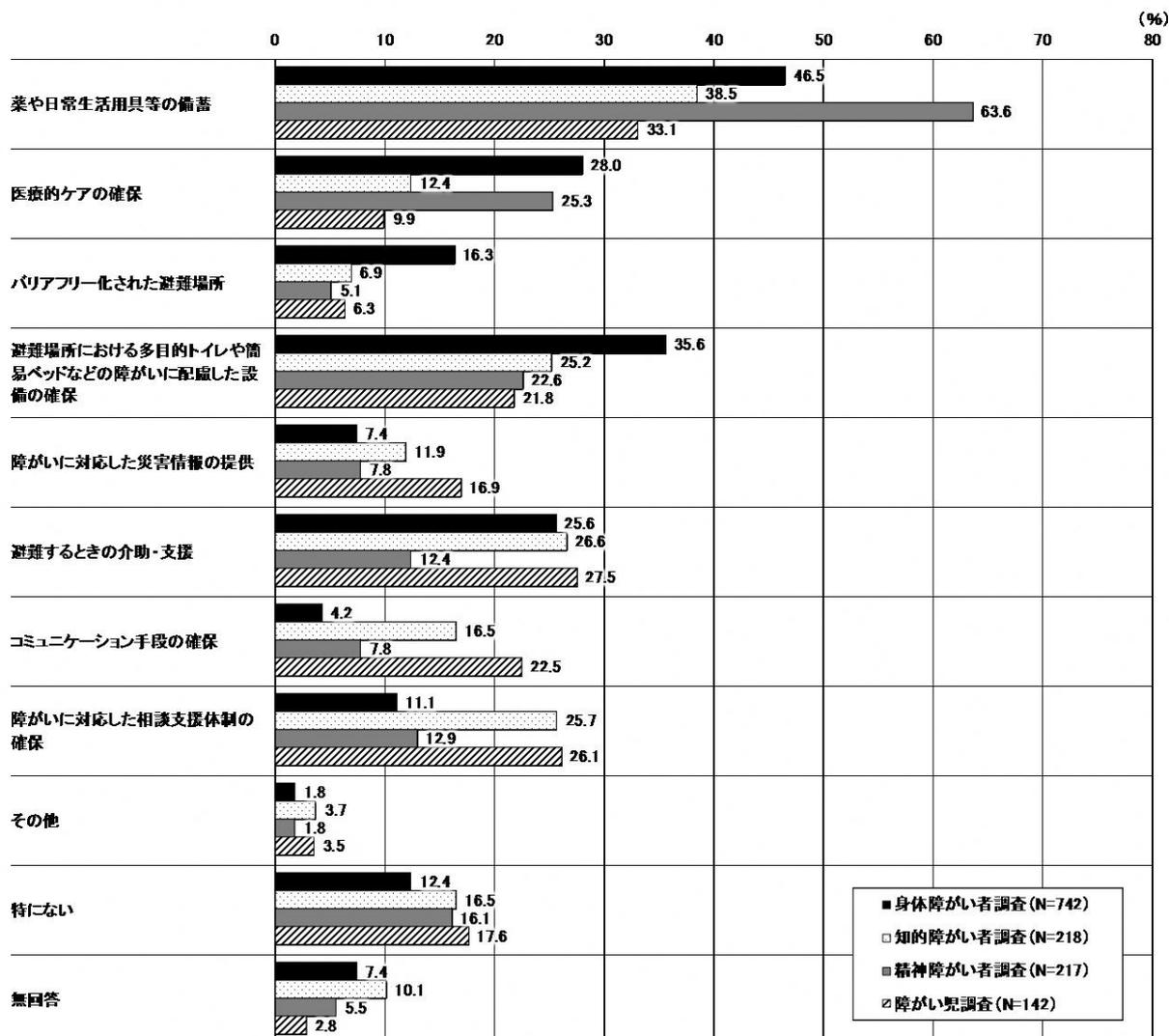
知的障がい者では、「同居の家族」61.0%が最も多く、次いで、「施設の職員や仲間」35.8%、「近所の別居家族や親戚」11.9%、「近所の友人・知人」7.3%、「いない」3.7%となっている。

精神障がい者では、「同居の家族」45.2%が最も多く、次いで、「近所の別居家族や親戚」20.3%、「いない」18.9%、「近所の友人・知人」11.5%、「施設の職員や仲間」10.6%となっている。

障がい児では、「同居の家族」73.2%が最も多く、次いで、「近所の別居家族や親戚」35.2%、「施設の職員や仲間」14.1%、「近所の友人・知人」12.0%、「いない」7.0%となっている。

## (6)大きな災害が起きた場合に必要な支援

【図 8-1-6 大きな災害が起きた場合に必要な支援(全体・調査別)】



身体障がい者では、「薬や日常生活用具等の備蓄」46.5%が最も多く、次いで、「避難場所における多目的トイレや簡易ベッドなどの障がいに配慮した設備の確保」35.6%、「医療的ケアの確保」28.0%、「避難するときの介助・支援」25.6%、「バリアフリー化された避難場所」16.3%となっている。

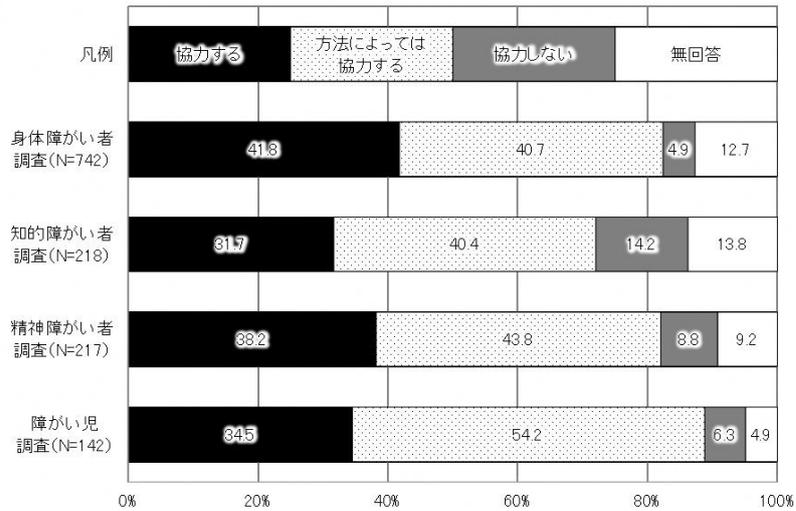
知的障がい者では、「薬や日常生活用具等の備蓄」38.5%が最も多く、次いで、「避難するときの介助・支援」26.6%、「障がいに対応した相談支援体制の確保」25.7%、「避難場所における多目的トイレや簡易ベッドなどの障がいに配慮した設備の確保」25.2%、「コミュニケーション手段の確保」「特にない」16.5%となっている。

精神障がい者では、「薬や日常生活用具等の備蓄」63.6%が最も多く、次いで、「医療的ケアの確保」25.3%、「避難場所における多目的トイレや簡易ベッドなどの障がいに配慮した設備の確保」22.6%、「特にない」16.1%、「障がいに対応した相談支援体制の確保」12.9%となっている。

障がい児では、「薬や日常生活用具等の備蓄」33.1%が最も多く、次いで、「避難するときの介助・支援」27.5%、「障がいに対応した相談支援体制の確保」26.1%、「コミュニケーション手段の確保」22.5%、「避難場所における多目的トイレや簡易ベッドなどの障がいに配慮した設備の確保」21.8%となっている。

(7)災害時の避難支援体制について

【図 8-1-7-1 協力意向(全体・調査別)】



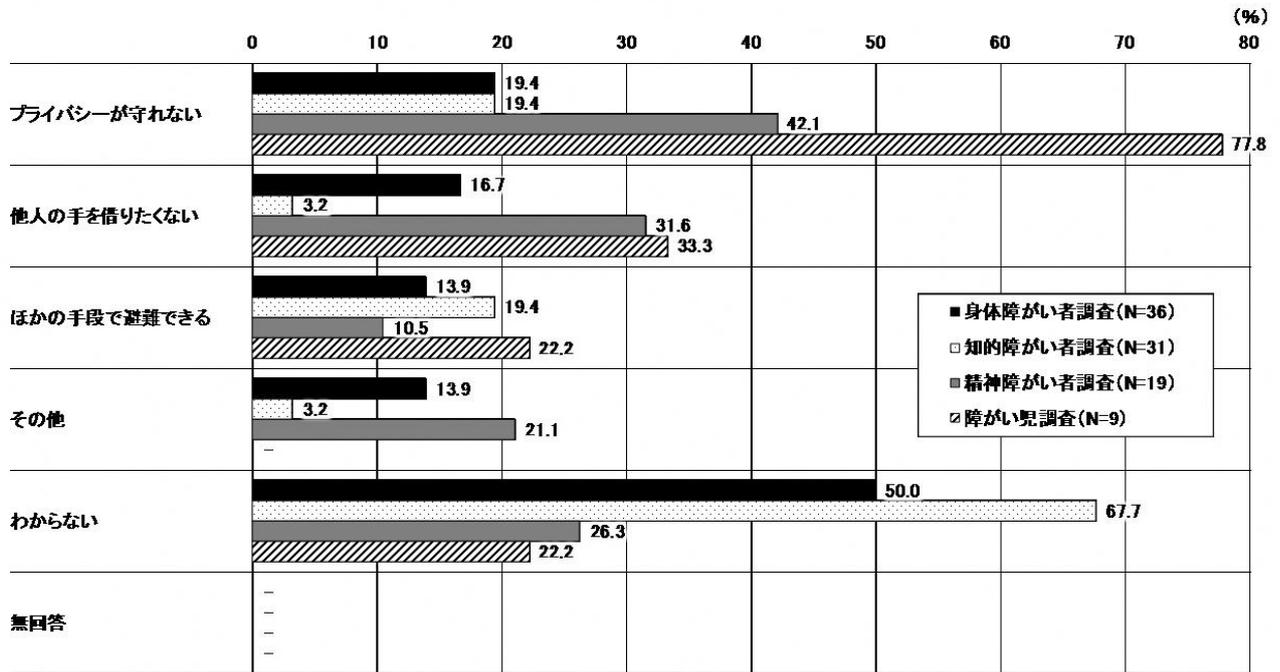
身体障がい者では、「協力する」41.8%が最も多く、次いで、「方法によっては協力する」40.7%、「協力しない」4.9%となっている。

知的障がい者では、「方法によっては協力する」40.4%が最も多く、次いで、「協力する」31.7%、「協力しない」14.2%となっている。

精神障がい者では、「方法によっては協力する」43.8%が最も多く、次いで、「協力する」38.2%、「協力しない」8.8%となっている。

障がい児では、「方法によっては協力する」54.2%が最も多く、次いで、「協力する」34.5%、「協力しない」6.3%となっている。

【図 8-1-7-2 協力しない理由(全体・調査別)】



身体障がい者では、「わからない」50.0%が最も多く、次いで、「プライバシーが守れない」19.4%、「他人の手を借りたくない」16.7%、「ほかの手段で避難できる」13.9%、「その他」13.9%となっている。

知的障がい者では、「わからない」67.7%が最も多く、次いで、「プライバシーが守れない」「ほかの手段で避難できる」19.4%、「他人の手を借りたくない」「その他」3.2%となっている。

精神障がい者では、「プライバシーが守れない」42.1%が最も多く、次いで、「他人の手を借りたくない」31.6%、「わからない」26.3%、「その他」21.1%、「ほかの手段で避難できる」10.5%となっている。

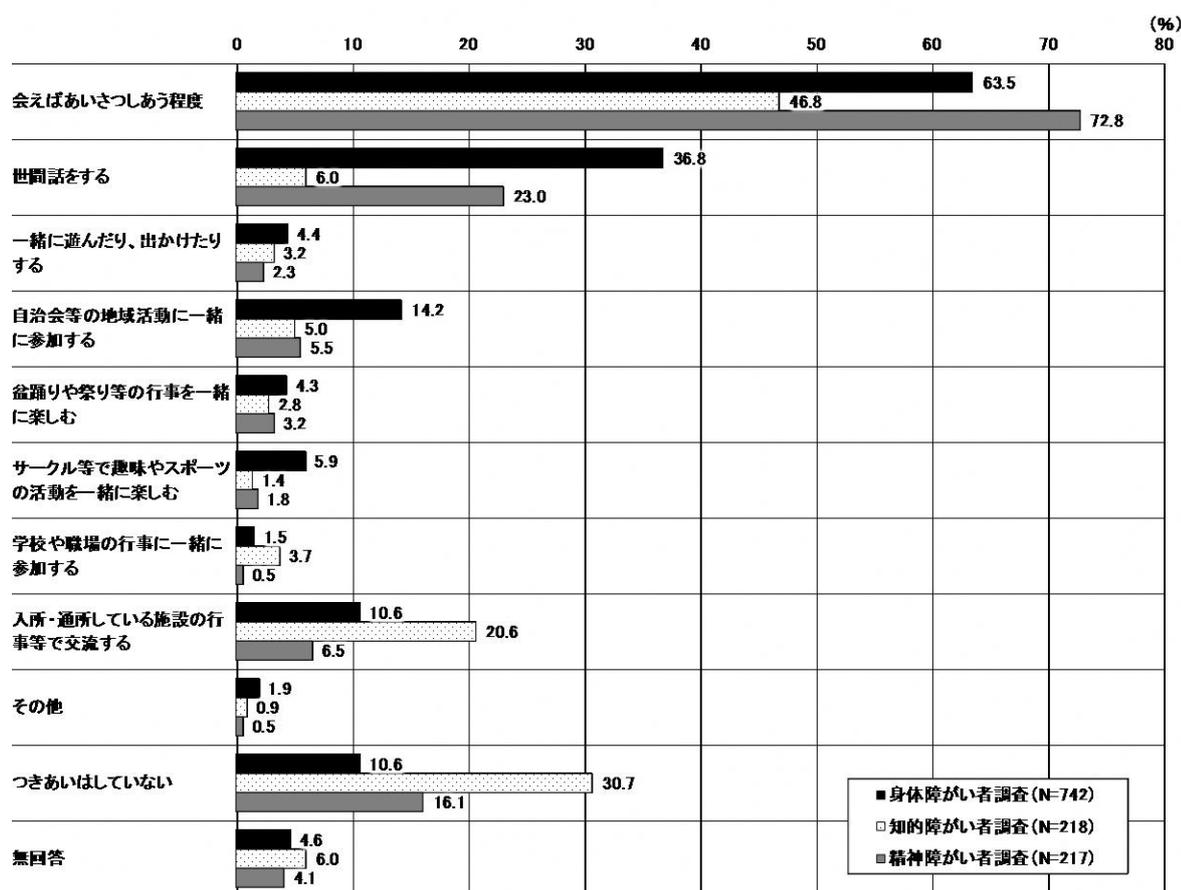
障がい児では、「プライバシーが守れない」77.8%が最も多く、次いで、「他人の手を借りたくない」33.3%、「ほかの手段で避難できる」「わからない」22.2%となっている。

## 第9節 社会参加や地域での生活について

### 1. 地域活動について

#### (1) 地域の人とのつきあい

【図 9-1-1 地域の人とのつきあい(全体・調査別)】



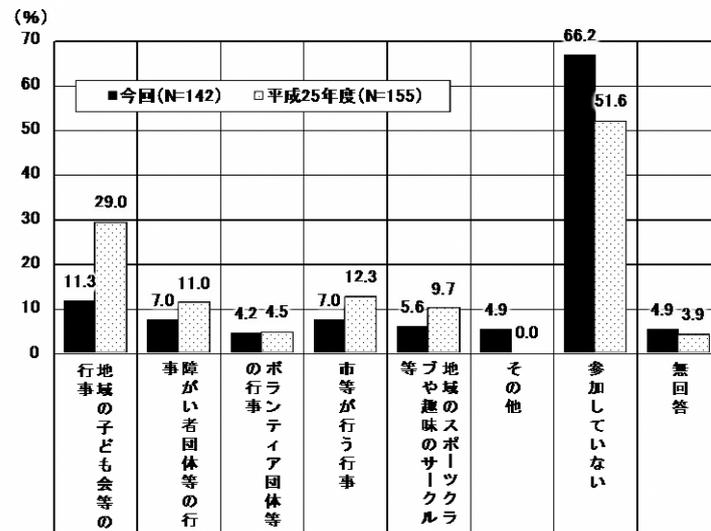
身体障がい者では、「会えばあいさつしあう程度」63.5%が最も多く、次いで、「世間話をする」36.8%、「自治会等の地域活動と一緒に参加する」14.2%、「入所・通所している施設の行事等で交流する」「つきあいはしていない」10.6%となっている。

知的障がい者では、「会えばあいさつしあう程度」46.8%が最も多く、次いで、「つきあいはしていない」30.7%、「入所・通所している施設の行事等で交流する」20.6%、「世間話をする」6.0%、「自治会等の地域活動と一緒に参加する」5.0%となっている。

精神障がい者では、「会えばあいさつしあう程度」72.8%が最も多く、次いで、「世間話をする」23.0%、「つきあいはしていない」16.1%、「入所・通所している施設の行事等で交流する」6.5%、「自治会等の地域活動と一緒に参加する」5.5%となっている。

(2) 障がい児の地域活動等への参加状況

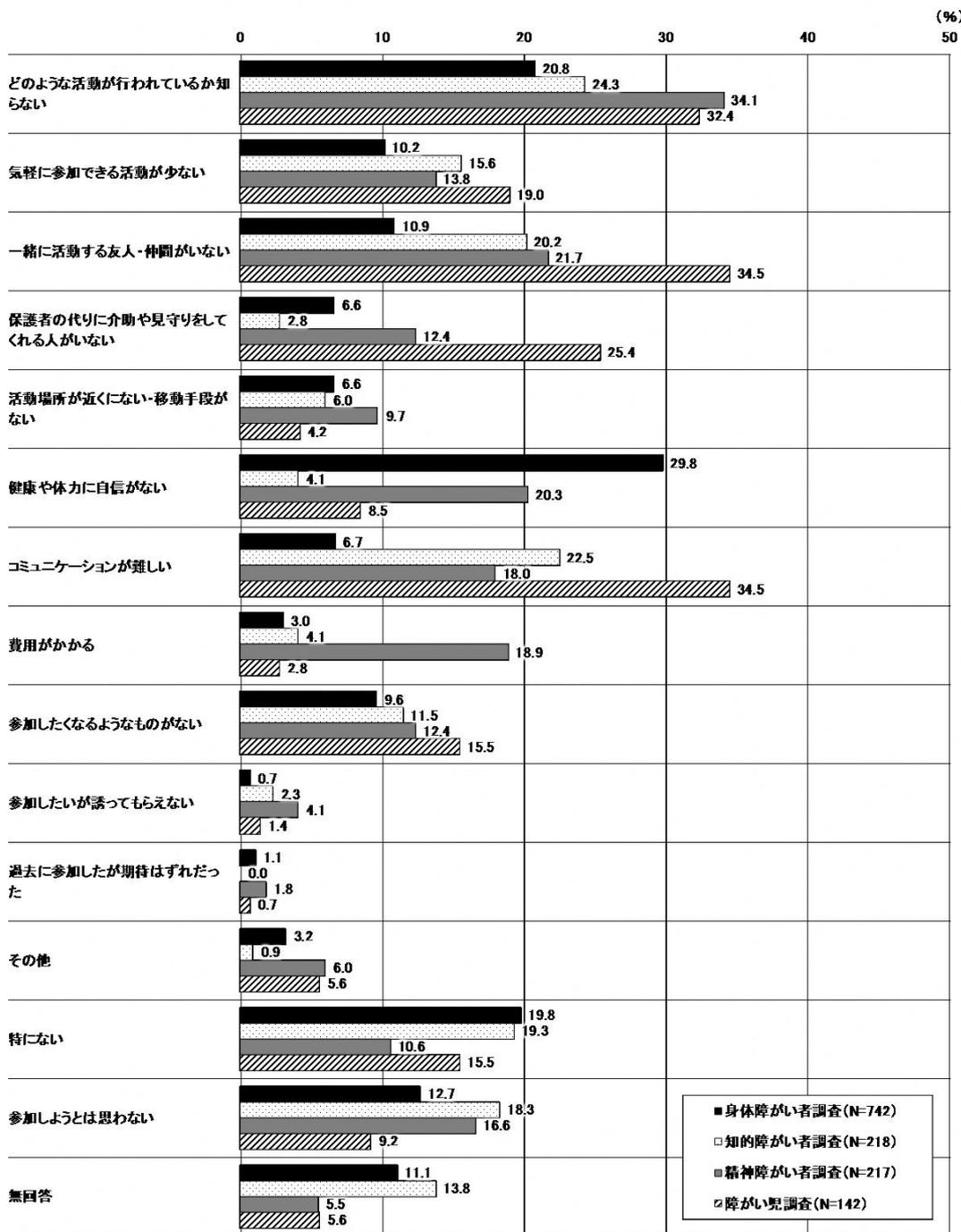
【図 9-1-2 障がい児の地域活動等への参加状況(全体・時系列)】



障がい児が地域の行事や活動へ参加しているかでは、「参加していない」66.2%が最も多く、次いで、「地域の子ども会等の行事」11.3%、「障がい者団体等の行事」「市等が行う行事」7.0%、「地域のスポーツクラブや趣味のサークル等」5.6%となっている。

### (3) 地域活動に参加するときさまたげとなること

【図 9-1-3 地域活動に参加するときさまたげとなること(全体・調査別)】



身体障がい者では、「健康や体力に自信がない」29.8%が最も多く、次いで、「どのような活動が行われているか知らない」20.8%、「特になし」19.8%、「参加しようとは思わない」12.7%、「一緒に活動する友人・仲間がいない」10.9%となっている。

知的障がい者では、「どのような活動が行われているか知らない」24.3%が最も多く、次いで、「コミュニケーションが難しい」22.5%、「一緒に活動する友人・仲間がいない」20.2%、「特になし」19.3%、「参加しようとは思わない」18.3%となっている。

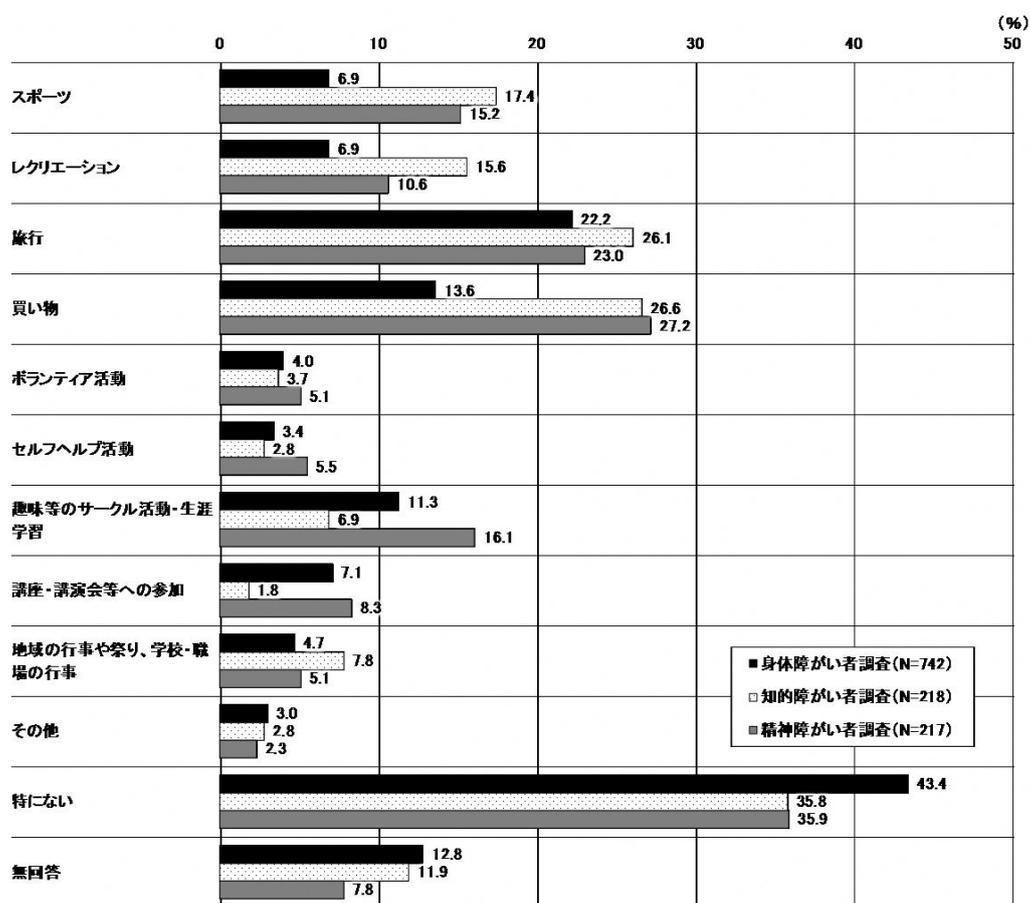
精神障がい者では、「どのような活動が行われているか知らない」34.1%が最も多く、次いで、「一緒に活動する友人・仲間がいない」21.7%、「健康や体力に自信がない」20.3%、「費用がかかる」18.9%、「コミュニケーションが難しい」18.0%となっている。

障がい児では、「一緒に活動する友人・仲間がいない」「コミュニケーションが難しい」34.5%が最も多く、次いで、「どのような活動が行われているか知らない」32.4%、「保護者の代りに介助や見守りをしてくれる人がいない」25.4%、「気軽に参加できる活動が少ない」19.0%となっている。

## 2. 余暇活動について

### (1) 参加したい余暇活動の内容

【図 9-2-1 参加したい余暇活動の内容(全体・調査別)】



身体障がい者では、「特にない」43.4%が最も多く、次いで、「旅行」22.2%、「買い物」13.6%、「趣味等のサークル活動・生涯学習」11.3%、「講座・講演会等への参加」7.1%となっている。

知的障がい者では、「特にない」35.8%が最も多く、次いで、「買い物」26.6%、「旅行」26.1%、「スポーツ」17.4%、「レクリエーション」15.6%となっている。

精神障がい者では、「特にない」35.9%が最も多く、次いで、「買い物」27.2%、「旅行」23.0%、「趣味等のサークル活動・生涯学習」16.1%、「スポーツ」15.2%となっている。